

施策評価（令和6年度）

施策評価調査

戦略6 教育・人づくり戦略			
目指す姿6 生涯にわたり学び続けられる環境の構築			
幹事部局名	教育庁	担当課名	生涯学習課
評価者	教育委員会	評価確定日	令和6年7月31日

1 施策（目指す姿）のねらい（施策の目的）

県民が、ふるさと秋田の魅力を発見し、豊かな感性を育むとともに、ライフステージや生活スタイルに応じて生涯にわたり学び続けられる社会の構築を目指します。

2 施策の状況

2-1 成果指標の状況及び定量的評価

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	配点	備考
①	【施策の方向性②】 県立美術館・近代美術館・県立博物館・農業科学館の利用者数(人) 出典:県教育庁調べ	目標			280,000	370,000	375,000	380,000	71.0%	1	
		実績	353,589	169,596	265,290	262,755					
		達成率			94.7%	71.0%					
②	【施策の方向性①】 障害者を対象とした講座や障害者の参加に配慮した講座を実施した市町村数(累積)(市町村) 出典:県教育庁調べ	目標			17	19	21	23	121.1%	4	
		実績	15	15	17	23					
		達成率			100.0%	121.1%					
③	【施策の方向性①】 県立・市町村立図書館等の個人貸出冊数(千冊) 出典:県教育庁調べ	目標			2,780	2,820	2,860	2,900	89.4%	2	
		実績	2,733	2,567	2,568	2,522					
		達成率			92.4%	89.4%					
④	【施策の方向性②】 国・県指定等文化財の件数(件) 出典:県教育庁調べ	目標			785	788	791	794	102.0%	4	
		実績	770	785	795	804					
		達成率			101.3%	102.0%					

※ 指標の判定基準

4点: 達成率 \geq 100% 3点: 100% $>$ 達成率 \geq 90% 2点: 90% $>$ 達成率 \geq 80%
1点: 80% $>$ 達成率 \geq 70% 0点: 70% $>$ 達成率 n: 実績値が未判明

定量的評価結果	計算式
2.75 (d相当)	4点 × 2個 = 8点 1点 × 1個 = 1点
	3点 × 0個 = 0点 0点 × 0個 = 0点
	2点 × 1個 = 2点
	合計 11点 ÷ 4個(判明済み指標) = 2.75

※ 成果指標において実績値が未判明となった指標がある場合には、それを除いて平均点を算出する。

※ 定量的評価の判定基準

a相当: 平均点が3.6点以上 b相当: 平均点が3.2点以上3.6点未満 c相当: 平均点が2.8点以上3.2点未満
d相当: 平均点が2.4点以上2.8点未満 e相当: 平均点が2.4点未満

2-3 主な取組状況とその成果

【施策の方向性① 多様な学びの場づくり】

- ・ 障害者の生涯学習をより多くの人に周知するため、「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」秋田大会をオンラインで開催したところ、107人の参加が得られた。
- ・ 県立図書館では、県民の多様な読書ニーズに応えられるよう、市町村立図書館・学校図書館に向けた展示・貸出用セット資料の内容追加及び更新を行った。
- ・ 「読んだッチリレー文庫」の設置（令和5年度設置件数28か所、平成23年度からの累計設置数937か所）により、子どもの読書環境の充実を図ったほか、「県民読書の日」に合わせたトークイベントや「あきたレビュー大賞2023」などの実施（イベント参加者数355名、レビュー応募数70点）により、県民が読書に親しむ気運の醸成を図った。

【施策の方向性② 良質な文化芸術に親しむ機会の充実と文化遺産の保存・活用】

- ・ 美術館・近代美術館・農業科学館においては、各館ともに前年度比6,000人以上の利用者増であった。博物館においては、令和4年度特別展「大恐竜展」入場者32,285人に対して、令和5年度特別展の入場者が2,626人であった。そのため4館合計の利用者数は減少したが、企画展等の充実を図ることによって文化芸術に親しむ機会を提供した。
- ・ 秋田県文化財保存活用大綱に基づき、縄文遺跡群や民俗芸能等を活用する機会を設けることで、文化財の魅力を発信することができた。また、郷土食調査事業を進める中で関係団体や学校等と連携を図るなど、文化財の継承活動への意識を高めた。

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
d	成果指標の達成率を基にした定量的評価は2.75で「d相当」であることから、総合評価は「d」とする。
	【定性的評価として考慮した点】 .

4 県民意識調査の結果

質問文	県民がライフステージや生活スタイルに応じて、生涯にわたり学び、文化芸術に触れる機会が提供されている。					
満足度	調査年度	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	肯定的意見	14.2%	14.0%			△0.2
	十分 (5点)	1.8%	1.7%			△0.1
	おおむね十分 (4点)	12.4%	12.3%			△0.1
	ふつう (3点)	48.9%	41.9%			△7.0
	否定的意見	17.4%	27.2%			+9.8
	やや不十分 (2点)	11.1%	17.8%			+6.7
	不十分 (1点)	6.3%	9.4%			+3.1
	わからない・無回答	19.5%	16.9%			△2.6
	平均点	2.90	2.75			△0.15

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障害者が参加可能な生涯学習講座については、障害への理解や開催ノウハウ、支援者の不足等により、実施に向けて複数の課題を有している市町村が多くある。 ○ 人口減少や少子高齢化、インターネットの普及により図書館に来なくても資料の閲覧や調査ができる環境が整備されたことにより、貸出等の利用が伸び悩んでいる。 ○ イベントの実施、SNSを活用した情報発信等により、県民が読書に親しむ気運の醸成を図っているものの、子育てや働き盛りの世代を中心に、読書時間が伸び悩んでいる傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域別の課題に応じた講座の開催に向け、各市町村の生涯学習・社会教育担当課や特別支援学校の同窓会等が連携・協働するネットワークを構築し、取組支援、情報発信等を行うことで、持続可能な学びを目指す。 ○ 図書館利用の促進と読書活動推進のための広報を行うとともに、県読書活動推進連絡協議会や市町村立図書館・学校図書館訪問等の際に、読書ニーズや先進的な取組についての情報収集と情報提供を行い、資料整備及び環境整備を進めていく。 ○ 仕事や家事等により読書から疎遠になっている方々に再び読書に触れてもらうきっかけとして、「聞く読書」をコンセプトとしたイベントを実施することなど、それぞれのライフステージに応じて読書に親しむことができる環境づくりを更に進める。
②	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和5年4月に改正博物館法が施行され、デジタル技術の積極的活用、他の博物館及び地域の多様な主体との連携、地域的・社会的課題への対応、地域の活力向上への取組等、博物館の更なる機能強化が求められている。 ○ 縄文遺跡群や民俗芸能、郷土食など本県の文化財の魅力が認められつつあるが、保存や活用に向けて地域住民と連携した取組が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての人々に開かれた文化・教育施設としてのミュージアムを目指し、博物館同士や地域の多様な主体との連携により、特別展の更なる充実、デジタル技術を活用した新たな鑑賞・体験の機会創出、障害者の生涯学習、展示方法のバリアフリー化等、これからの博物館に求められる課題に対応するための機能強化を図る。 ○ 秋田県文化財保存活用大綱に基づき、観光部門や地域づくり部門、学校教育等と連携した取組を推進することで、地域住民の文化財を継承しようという気運を盛り上げ、保存と活用の相乗効果を図る。

6 政策評価委員会の意見

--